

平成21年3月31日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17203035
 研究課題名（和文） 危機的調査環境における新たな社会調査手法の開発

研究課題名（英文） Developing innovative research methods for social surveys
 in difficult survey circumstances

研究代表者

大谷 信介（OTANI SHINSUKE）
 関西学院大学・社会学部・教授
 研究者番号：10168974

研究成果の概要：住民基本台帳などの公的名簿の使用制限によって困難となっているサンプリングの現状を打開するため、「住宅地図」を用いたサンプリング手法の開発と問題点を考察した。高松市調査によって、一戸建てを対象とした社会調査では「住宅地図」サンプリングは使用可能性が高いことが証明された。西宮市調査では、アパート・マンションを対象とした調査を実際に行い、どのような問題点が存在しどのような工夫が必要となるかを検証した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	9,500,000	2,850,000	12,350,000
2006年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2007年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	20,000,000	6,000,000	26,000,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会調査方法、サンプリング、回収率、共同住宅、住宅地図、地図情報、
 割当て法、層化抽出法

1. 研究開始当初の背景

学術的社会調査の実施環境は危機的状況にあった。調査の実施に不可欠な信頼性の高い名簿（選挙人名簿や住民基本台帳）の利用が年々制限されてきていることがその主たる理由である。関西圏を例にとるなら、選挙人名簿は、2004年2月時点で奈良市での利用が制限され、兵庫県下の全自治体も2005年以降の使用禁止が検討されていた。また住民基本台帳も、住基ネットワークの導入によってこれまで以上に厳密に運用され、学術調査といえどもその利用が困難になってきて

いたのである。こうした動きは急速に全国に広まってきており、社会調査士資格認定機構（日本社会学会・日本行動計量学会・日本教育社会学会の共同設立）に対して、名簿利用を制限している自治体に機構として何らかの対応をしてほしいという要請が複数提起されてきていた。もちろんこうした認定機構や学会からの働きかけも重要な意味を持つことではあるが、そうした危機状況にも対応できる「名簿を利用しない新たな調査手法」の開発は社会学研究にとって急務で切実な課題であると位置づけられた。

2. 研究の目的

これまでの社会学研究では、名簿利用が容易だったこともあって、「名簿を利用しない調査手法」に関する研究は、全くといっていいほど検討されてこなかった。

こうした状況に対して民間企業（マスコミ等）では、名簿の商用利用制限などもあって、早くから「名簿を利用しない調査手法」が模索されてきた。例えば、電話帳を使わず電話番号をコンピュータでランダムに発生させ調査対象を決定するRDD法（電話調査）やインターネット調査はその典型である。しかし、これらの調査手法は、基本的に母集団を確定することも、標準誤差を計算することもできない、統計学的根拠のきわめて乏しい調査手法であり、選挙予測では使えるかもしれないが学術調査に応用することはとても困難な調査手法である。

そこで本研究では、名簿が使えなくなったときに備えて、海外における調査事例を参考にしながら、「名簿を利用しない新たな調査手法」を開発することを研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1) 海外動向調査の実施

住民基本台帳や有権者名簿によらないサンプリング手法を研究・実践している海外事例として、アメリカのシカゴ大学・ミシガン大学の高等教育機関および民間調査会社で、手法の説明や施設の視察を実施した。また、社会調査法教育カリキュラム改善のため、イギリス・オランダ・オーストラリアで資料収集をおこなった。

(2) 住宅地図の利用可能性調査(高松調査)

① 高松市電子住宅地図調査

高松市電子住宅地図を使って、一戸建てと共同住宅にわけ、姓名記入状況を整理し、サンプリング台帳として利用することが可能かの検証をおこなった。

② 選挙人名簿サンプリングデータ照合

高松市の選挙人名簿で実際に500サンプルの標本抽出を実施し、そのデータを住宅地図と照合する作業をおこなった。

(3) 共同住宅対象の調査実施(西宮調査)

① 西宮マンションデータベースの作成

西宮市住宅地図の別記情報をもとに、共同住宅を建物ベースでリストアップし、データベースを作成。

② アパート葉書調査の実施

これまでの調査で、実施が困難とされてきた1・2階建ての共同住宅(アパート)住民にどの程度調査が可能なのかを検証するためにポスティングによる調査を実施。

③ マンション調査の実施

国勢調査の共同住宅世帯数の比率を参考として、データベースから対象マンションを特定化し、その後対象者を特定するというサンプリング方法によって4000サンプルを標本抽出し、訪問・郵送・ポスティングという方法で調査を実施。

「西宮アパート・マンション調査」調査概要

調査期間：2008年11月8日～12月25日
調査対象者：西宮市の共同住宅に住む世帯
調査方法：冊子形式・はがき形式の2種類の調査票を使用

実査：郵送法・調査趣旨を説明し調査協力を依頼する訪問法・ポストに直接投函するポスティング法

抽出方法：ゼンリン住宅地図を元に作成したマンションデータベースから、居住類型・建物名・階数・総戸数・居住率・地域を考慮し、サンプリングを実施

回収数：マンション調査 全体 844票／4000票（回収率 21.1%）

【調査方法別】

郵送 161票／799票（回収率 28.3%）

訪問 226票／799票（回収率 19.0%）

ポスティング 456票／2402票（21.1%）

アパート調査 全体 130票／1381票（回収率 9.4%）

4. 研究成果

(1) 海外調査事情調査

アメリカの事例では、調査手法と密接に結びついた3つのサンプリング手法について、その特性と課題、今後の可能性について把握することができた。

イギリス調査ではドキュメント分析の一手法である「ヴィジュアル・リサーチ・メソッド」に関して欧米の事情を把握することができた。オランダではユトレヒト大学における調査により、日本における社会調査士標準

カリキュラムと同様の講義が実施されていることが明らかにされた。オーストラリアでは、社会調査教育で使用されている教科書の記述から特に「調査倫理」に関する争点をまとめることができた。

(2) 住宅地図の利用可能性

① 高松市電子住宅地図調査

住宅地図に記載されている名前情報は、全体の63%が姓名、37%が姓のみ記載されていた。一戸建てでは、81%が姓名、19%が姓のみが記載されており、共同住宅では、25%が姓名、75%が姓のみという実態であった。この結果より、一戸建てには名簿として利用可能性が高いが、共同住宅には利用が困難な状況があることが判明した。

② 選挙人名簿との照合調査

通常の方法で選挙人名簿からサンプリングした500標本を住宅地図で照合したところ、住所と名前が一致したのは358標本(72%)、住所はあるが名前が一致しなかったのが67標本(13%)、住所が確認できないのが75標本(15%)であった。一戸建ての場合、住所名前一致が289標本(80%)、名前不一致31標本(9%)、住所不一致42標本(12%)であったのに対して、共同住宅の場合、住所名前一致が69標本(50%)、名前不一致36標本(26%)、住所不一致33標本(24%)であった。この調査結果においても、共同住宅での名簿利用が困難な状況が明らかとなった。

(3) 共同住宅対象の調査実施(西宮調査)

高松調査で、住宅地図を使ったサンプリング方法で一戸建ての可能性は高いものの、共同住宅においては厳しい状況であることが判明した。その事実を踏まえて、共同住宅を対象とした調査を、住宅地図サンプリングで実施する方法を、共同住宅比率の高い西宮市で実験的に試行した。まず行ったのが、マンションデータベースの作成であった。

① 西宮マンションデータベース

住宅地図別記情報の最大の欠点は、マンションの分譲-賃貸の区別が判明しない点であった。そこで西宮市役所都市局都市計画部住宅政策グループの協力を得て分譲マンションに関する情報を入手し試験的に入力した。マンションデータベースのメリットは、全国共通で建物ベースでマンションを把握できる点である。このデータベースによって、西宮市には、7178棟のマンションが存在するこ

とが判明した。

② アパート葉書調査からの知見

西宮マンションデータベースより、1・2階建の共同住宅と長屋建てを対象として、ポスティングによる調査を実施した。回収状況は、1381サンプル中130票(9.4%)という低い数字であった。はがき調査という比較的回答しやすい調査方法を使った数字であることを考えると、アパート居住者に郵送等の調査を実施すること自体断念せざるを得ないのではという知見を得ることができた。今後は、回収できた130票の内容を詳細に検証することが課題となる。

② 西宮マンション調査からの知見

国勢調査の共同住宅比率を使用することによって、階数別(3-5階、6-10階、11-14階、15階以上)と種類別(公営住宅・社宅・分譲マンション・賃貸マンション)のサンプル割り当てを決定することが可能となる。その比率に基づいて、対象マンションを建物ベースで選定し、その中の姓名が判明している人を住宅地図から対象者と選定すれば、郵送調査は実施できることが判明した。また訪問やポスティングという方法では、姓名が判明しなくても世帯主を対象とした調査であれば実施できることもわかった。

全体の回収率は、21.1%と低いものだった。郵送とポスティングを比較してみると、若干郵送のほうが回収率は良いが大きな差はなかった。訪問の場合は、不在が多く非効率ではあるが、直接調査依頼することができれば約50%の高い回収率が得られることも判明した。オートロックが調査実施困難状況を深刻化させているというのが一般的な見解であったが、オートロックがあるマンションのほうが回収率がよいということが判明した。それは、オートロックがあるマンションの方が階層が高いことも関連している。

今後は、回収標本の詳細な分析とマンションデータベースを複合的に解析していくことによって、住宅地図を使った共同住宅調査の問題点と課題を整理していくことになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

①大谷信介 「世論調査」の問題状況と社会調査士制度 『社会と調査』 創刊号 p13-22 2009年 査読有

- ② Shinsuke OTANI, How Do Housing Types Affect Neighborhood Relationships? : Analysis of a Four-City Survey in Japan, Kwansai Gakuin University school of Sociology and Social Work Journal102, p19-33,2007, 査読無
- ③ 大谷信介編 『ニュータウン住民の生活行動とネットワーク～「関西ニュータウン比較調査」報告書(2)』 関西学院大学社会学部大谷研究室 p1-191 2006年 査読無
- ④ 小松洋 「義務的行動と自発的行動ーごみ減量行動規定因の分析ー」 『社会学研究』 80 p53-75 2006年 査読無
- ⑤ 後藤範章 『「集合的写真観察法」に基づく教育実践』 『社会情報』 札幌学院大学社会情報学部 第15巻第1号 p37-47 2005年 査読無

[学会発表] (計1件)

- ① 大谷信介 「世論調査報道のあり方と調査論の課題」～NHKニュースの世論調査報道をめぐる～ 日本社会学会 80回大会 2007年11月17日 関東学院大学

[図書] (計11件)

- ① 大谷信介編 『西宮アパート・マンション調査報告書』 関西学院大学社会学部大谷研究室 135ページ 2009年
- ② 永野武編 『合併後の諸状況をめぐる今治市民意識調査報告書』 松山大学社会調査室 146ページ 2009年
- ③ 後藤範明編 『交通インパクトの社会的効果に関する第7次調査報告書』 日本大学文理学部社会学科 206ページ 2009年3月
- ④ 大谷信介 『<ポスト都市化社会>の都市現象』 関西学院大学社会学部大谷研究室 130ページ 2008年
- ⑤ 後藤範章 『「丸の内らしさ」に関する調査報告書』 日本大学文理学部社会学科 251ページ 2008年
- ⑥ 小松洋 『暮らしと環境政策に関する松山市民意識調査』 松山大学社会調査室 151ページ 2008年
- ⑦ 大谷信介 『<都市的なるもの>の社会学』 ミネルヴァ書房 238ページ 2007年
- ⑧ 大谷信介編 『ニュータウンにおける自治会形成：町内会は日本の文化なのか』 関西学院大学社会学部大谷研究室 106ページ 2007年
- ⑨ 後藤範章編 『「丸の内らしさ」に関する調査報告書』 日本大学文理学部社会学科 「社会調査士コース」後藤ゼミ 251ページ 2007年
- ⑩ 吉岡雅光編 『現代社会学のアジェンダ』

- 学文社 232ページ 2006年
- ⑪ 現代伝承論研究会編 『現代都市伝承論』 岩田書院 360ページ 2005年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 信介 (OTANI SHINSUKE)
 関西学院大学・社会学部・教授
 研究者番号：10168974

(2) 研究分担者

後藤 範明 (GOTO NORIAKI)
 日本大学・文理学部・教授
 研究者番号：70205607

木下 栄二 (KINOSHITA EIJI)
 桃山学院大学・社会学部・教授
 研究者番号：80234318

小松 洋 (KOMATSU HIROSHI)
 松山大学・人文学部・教授
 研究者番号：60241501

永野 武 (NAGANO TAKESHI)
 松山大学・人文学部・准教授
 研究者番号：50268736